

43 『蔵府和名攷』について

竹内 尚

森立之が編纂した『蔵府和名攷』不分巻一冊は、五蔵六府の和名を『医心方』の傍訓などから抜き出し、その語源について『和名類聚抄』（以下『和名抄』と略す）などにより考証したものである。森立之の跋文によると、本書の成立は安政六（一八五九）年で、『医心方』校訂時の産物であるとしている。

本書の著者である森立之（一八〇七～一八八五）は、幕末の著名な考証医家のひとりで、字は立夫、通称養真のち養竹、号は枳園である。本書以外の著書は数多く知られているが、『本草経攷注』『素問攷注』『傷寒論攷注』などが特に有名である。

『蔵府和名攷』は『国書総目録』によると、静嘉堂文庫、京都大学富士川文庫、東北大学狩野文庫に所蔵されている。その他にも小曽戸洋氏によると、「杏雨書屋（自

筆）、東京国立博物館、研医学会図書館などの所蔵本（いずれも写本）がある。研医学会本は「五蔵六府倭名攷」と題す。東北大本には独自の記述もある（「森立之―その家系・略歴・著述」『漢方原典攷注集』、オリエン特出版社）としている。

本書の構成は、肝心脾肺腎、胆小腸胃大腸膀胱三焦、五蔵、六府の十三項目よりなる。各項で、『医心方』の傍訓や『和名抄』の訓より抜き出した蔵府の和名を、「肝、和名岐毛」「肺、和名布久布久之」「胆、和名以」「大腸、和名波良和太」などと列挙している。これらの蔵府及びその和名に対して、引用書目を列挙して、さらに案語を附している。引用書目には、『素問』『靈枢』『難経』『太素』『説文解字』『白虎通』『釈名』『後漢書』など、多数の書が挙げられている。しかし本書の引用は、実はその大部分が、狩谷棧斎の『箋注和名類聚抄』（以下『箋注』と略す）によるものである。引用文の多くは『箋注』中に見えるものであり、その孫引きであると考えられる。それらに棧斎案語などを含めると、森立之案語を除いた部分の大半を、『箋注』からの引用が占めている。従って『蔵

『和名抄』の訓とは異なるものがあり、また森立之の案語は『箋注』の不足を大きく補っているため、『箋注』と比べて完成度はかなり高くなっていると言えよう。

森立之は、本書の成立の翌年である安政七(一八六〇)年に、『素問攷注』全二十巻の大著の編纂に着手している。『蔵府和名攷』には、たびたび『素問』靈蘭秘典論第八の、「心者、君主之官也」などの蔵府に関する記述が引用されている。そこで『素問攷注』の靈蘭秘典論の蔵府に対する攷注を見みると、そこに『蔵府和名攷』の内容のほとんどが収録されていることが判明した。『素問攷注』には『蔵府和名攷』に見られない記述も多数あるが、少なくとも蔵府の和名に関する記述においては、『蔵府和名攷』の内容をほぼそのまま用いており、それに若干の補訂を加えている。

以上のことにより、森立之の五蔵六府の和名に対する考証は、『医心方』の校正を契機に始まり、『箋注和名類

聚抄』を用いて『蔵府和名攷』にまとめられ、『素問攷注』でさらに発展した、という流れが明らかになった。

(日本鍼灸研究会)